

# 山陰道(久城～高津)における計画段階評価

## 1. 当該地域の課題

### ①災害による通行止めの発生

- 昭和58年の豪雨災害では、益田川の氾濫により、甚大な被害が発生。(写真1)
- 災害時に緊急輸送道路の途絶が発生するが、代替路がなく広域迂回を強いられる。(図1)



写真1 益田市内の浸水状況(昭和58年豪雨)

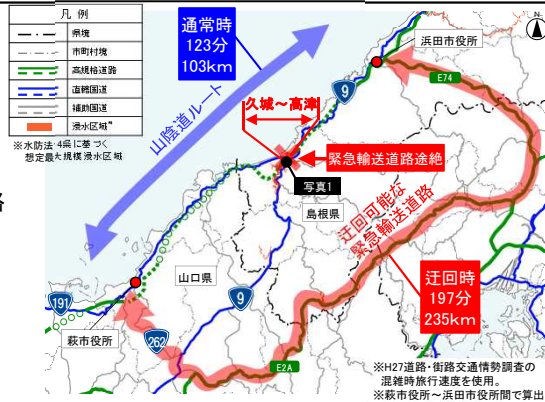


図1 緊急輸送道路の途絶による広域迂回

### ②救急搬送の速達性、確実性の不足

- 萩市の旧須佐町、旧田万川町や津和野町、吉賀町からの重篤患者の救急搬送は益田市の二次救急医療機関に依存しているが、救急搬送に30分以上要する高次救急医療機関の空白地域が存在。(図2、3)
- 救急搬送時間の短縮や、搬送患者に負担の掛からない走行性の良い搬送ルートの確保が必要。

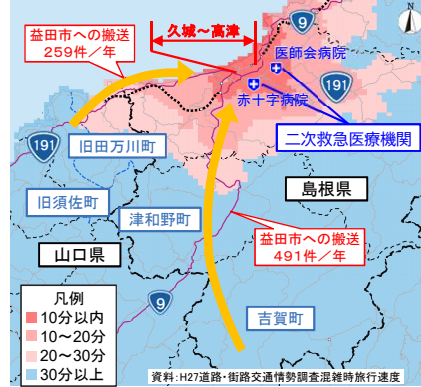


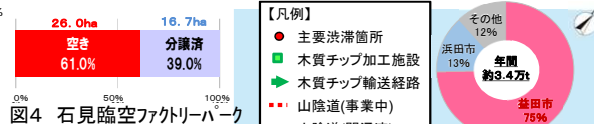
図2 萩市東部、津和野町、吉賀町の救急搬送先割合



図3 二次救急医療機関への30分圏域

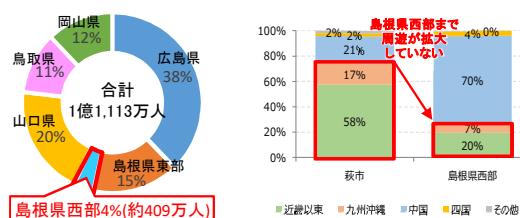
### ③地域産業への支障

- 益田市唯一の工業団地は、分譲開始から20年以上が経過しているが、高速道路へのアクセス性が悪いことなどから、分譲率は39%と企業立地が進んでいない。(図4)
- 益田市は、発電所等で使用する木質チップの主要な産地となっているが、輸送の効率化が課題。(図5)



### ④低い観光周遊性やアクセス性

- 島根県西部の観光客数は島根県内の2割程度、中国地方の1割に満たない状況。(図6)
- 九州及び近畿以東から萩市を来訪した観光客の島根県西部への周遊は拡大していない状況。(図7)
- 都市間(観光地間)の速達性・定時性の向上に課題。



## 2. 原因分析

### ①災害等に対し脆弱な道路ネットワーク

- 島根県緊急輸送道路に指定されている、国道9号及び国道191号は、高津川及び益田川の洪水による浸水で途絶が発生。(写真2、図8)
- 益田市内のその他緊急輸送道路も浸水するため、代替路が確保されていない。

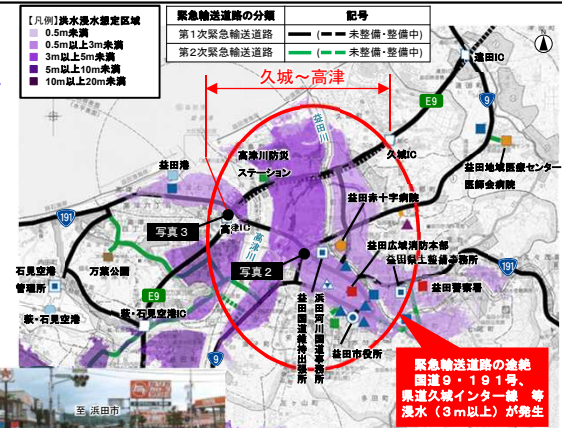


図8 益田市の緊急輸送道路の途絶

### ②救急搬送時における道路ネットワークの速達性、走行性が不十分

- 医療空白地へアクセスする速達性のある道路ネットワークが不十分。(図3)
- 主な搬送ルートである県道久城インター線には、走行性が悪く、信号交差点が点在する、速度調整が難しい区間が存在。

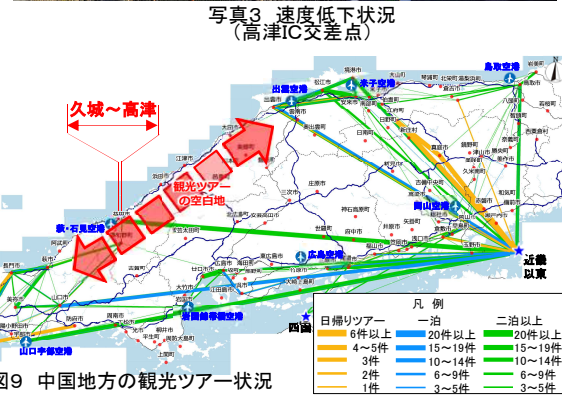


### ③物流効率性・確実性の低い道路ネットワーク

- 企業進出や企業活動の効率化に資する広域物流ネットワークが確保されていない。
- 交通混雑の影響を受けやすく、輸送効率が低い輸送ルート。(写真3)
- 災害発生時に代替路がなく、確実性の不安定な輸送ルート。

### ④観光周遊性の低い道路ネットワーク

- 高速道路ネットワークが未形成で、速達性・定時性が確保出来ないため、観光ツアーの設定や周遊観光等に支障をきたしている。(図9)



## 3. 政策目標

- ①災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの確保
- ②救急医療機関への速達性・走行性の確保
- ③物流効率化による地域産業の活性化
- ④速達性・定時性確保による観光振興の支援



